

新潟県立中央病院 地域連携だより

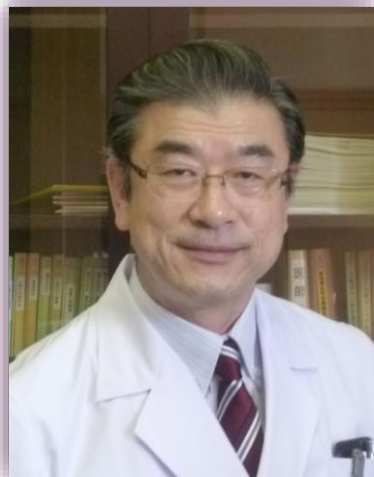


発刊 第47号

発行 令和2年1月10日

発行者 新潟県立中央病院

地域連携センター



院長 長谷川 正樹

新年あけましておめでとうございます。

全国の自治体で地域医療構想の策定が求められ、今後の人口減少、少子高齢化に向けた診療圏ごとの病院の役割の検討が始まっています。昨年の9月には全国の公立・公的病院に対し今後のあるべき姿という形で再編統合の病院名発表が唐突に行われました。新潟県は県立・厚生連の病院が多くその中の53.7%もの病院が再編統合の対象とされました。

新潟県は全国で人口当たりの医師数は2番目に少なく、一人あたりの年間医療費も全国平均を大きく下回っており、それでも健康寿命は全国で上位の位置にあります。県内の医療が良心的に的確に行われている実態を示しているものと考えられます。昨年11月に新潟市で行われた「地域医療構想の具体的対応策」という講演会の演者の先生は厚労省の地域医療構想のWGのメンバーのおひとりでした。新潟の医療が少数の医師でどれだけ頑張っているかをお話し、新潟モデルとして国の政策にも反映させてほしいとの要望をお伝えいたしました。

上越地域をみると新潟県内でも県平均を下回る医師過疎地域であります。その様な中で地域医療がなんとか保たれているのは、各病院がそれぞれの役割を持ち、病院間の連携を行うことによってお互いに協力しているからだと考えます。しかし高齢者の急性期治療を終えた後、回復期の病院にお願いしても回復期から自宅・施設への患者さんの移動がままならず、転院待ちが長くなる問題は年々深刻になってきているように感じます。

在宅ケア・在宅診療の需要はますます大きくなっていきますが、地域全体の医師不足・医師の高齢化の現状を見ると供給面はなかなか追いつかないのが現実です。診療所・施設・病院がお互いに密に連絡をとりながら柔軟に連携することが大変重要となってきています。

地域連携センターは 当院と地域の病院ならびに診療所との連携の要であり、今後その役割はますます大きくなっていきます。そのような中で様々な問題も出てくるかと思いますが、何かありましたら当院へのご意見・ご希望を御遠慮なくお知らせください。ご要望に副うべくひとつひとつ改善をしていきたいと思っております。

大変な時代を迎えつつありますが、今年もよろしく願い申し上げます。



飯酒盃医院

飯酒盃 訓充 先生



中央病院には大変お世話になりました。平成12年11月から18年余りの間本当にありがとうございました。

さて、私事ですが令和元年7月16日に飯酒盃医院を立ち上げました。勤務医の時とは目線も考えることがらりと変わりました。スタートして5か月足らずですが、毎日が勉強です。日々の診療もまだ慣れてきたとは言えませんが地域の皆さんのお役に立てるよう頑張っていきたいと思います。

スタッフは看護師2名、医療事務員2名とこじんまりしていますが、和気あいあいとやっています。

血液内科出身であることよりHITACHI3500という生化学の検査機器を導入しました。医院でできる範囲ですが迅速な結果説明をさせていただいております。

患者さんの紹介や画像検査依頼などこれからも貴院にはお世話になります。引き続きよろしくお願い申し上げます。





診療科紹介



救急科

小川 理 医師



《救急外来スタッフ》

救急科は当院に来院・搬送される救急患者さんへの対応を行っている科です。対応する疾患は、心臓病のこともあれば、頭の病気のこともあれば、けがの場合もあります。いろいろな疾病・病気を含めて、緊急で対応する必要があるものすべてが対象になります。

救急診療は、応急処置だけで経過をみれる一次救急診療、入院して治療あるいは経過観察が必要な二次救急診療、緊急手術が必要な三次救急診療の3つに分けられています。

当院は地域の三次救急診療を担うことを使命とし、救命救急センター（集中治療室）という特別な施設を併設しており、救急科のスタッフは主としてこのセンターで業務を行っています。集中治療室では、重症外傷患者、重症感染症患者、心肺停止後蘇生症例、などを対象に人工呼吸器や心肺補助装置がついている患者さんを中心に診療しています。

上越地域の唯一の救命救急センターですので、消防機関からの（救急車）診療依頼は断らないことを目標としています。スタッフは医師、看護師（救急外来と集中治療室）、重症患者を助ける機械の管理をする臨床工学技士、リハビリを担う理学療法士、言語療法士、栄養士、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなど、多数の職種のスタッフが力を合わせて、救急患者、重症患者への診療に取り組んでいます。この地域で発生した救急患者・重症患者さんを365日、24時間体制で救えるようスタッフ全員で努力していきます。



《救命救急センタースタッフ》

（前列右より、救急科：曹 Dr、救急科：小川 Dr）



院内活動：認知症ケアチームの活動紹介

当院では10月より認知症ケアチームを立ち上げ、院内の多職種と協力し、身体疾患のために入院した認知症の方に対して、認知症の対応力とケアの質の向上を図って日々活動しています。入院した認知症の方は、急な環境の変化や全身状態の悪化、様々なルート類につながれた状態などから混乱状態となりやすいです。この混乱した状態はせん妄といい、認知症の症状が悪化したような状態に感じられます。



この症状は適切な対応によって予防や緩和することができます。せん妄状態が続くことは、ご本人の認知症症状や、身体疾患に対してもよい状況とは言えません。

認知症症状悪化予防・身体疾患の治療を円滑に受けられることを目的に、病棟所属の認知症について学んだ看護師と協力して、環境調整やよりよいコミュニケーションのとり方など、日々研鑽しています。

脳神経内科Dr、認知症看護認定看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ、MSWの多職種で活動中！

がん相談支援センターより

がん相談支援センター長 大野 正文

キャンサーボードについて

がんの治療においては、当該科診療科のみの知識や経験だけでは必ずしも最良の医療を提供することが出来ない状況にあります。そのために多職種の医療スタッフが参加し患者さんのがん治療について最適な治療法を包括的に議論する場であることがキャンサーボードの特徴です。

是非地域の先生方からもご参加いただきたいと思います。2月は歯科口腔外科、3月は乳腺外科の症例を予定しています。なお来年4月からの開催該当科は当院のHPをご覧ください。

毎月最終月曜日 17:30より30分程度 当院講堂1にて開催しております。

【患者の仕事と治療の両立支援】研修会開催

新潟産業保健総合支援センター 両立促進員をお招きし、仕事をしながらがん治療をされている患者様への復職支援事業に関する研修会を行います。

2020年2月21日(金) 17:30~18:30 当院講堂2・3にて開催いたします。

ご興味のある方、地域の皆様も是非ご参加ください。お待ちしております。

